

## 2008年度大学入試センター試験 解説〈倫理〉

### 第1問 青年期の課題 (8点)

問1  正解は④。

A～Dの状況のそれぞれについて、「探索」の途上もしくは経験済みであるか否か、それに実際に「関与」しているか否かという点を整理してみるといい。すると以下のような一覧表が得られるはずだ。

	探索	関与
エ, C	○	○
ウ, B	○	×
イ, A	×	○
ア, D	×	×

迷うとすればBとCであろう。Cの「司法試験のための勉強」はモラトリアム期間の間のように見えるが、Bが進路決定を消極的理由により先延ばしした状態であるのに対し、Cは積極的に目標に向かって進んでいるので、こちらが「関与」の状態としてよりふさわしい。

問2  正解は②。

ア-エリクソンは人生を8つの時期に分け、各段階における発達課題を達成しながら自己を形成していくというライフサイクル論を提唱した。エ-レヴィンは青年を大人でも子供でもない宙ぶらりんの状態として「境界人」と位置づけた。この両者は基礎知識。イ-フランクは第2次大戦中のユダヤ人収容所での体験を『夜と霧』にまとめ、人間はいかなる状況に置かれても最後まで「生きる意味」を問い続けると述べた。これも知っていてほしい。ウ-シュブランガーが青年期における「自我のめざめ」を重視したというのはかなり細かい知識であり、特定するのは難しいが、ア、イ、エから正解は得られる。

問3  正解は④。

女性の高年層では「仕事志向」の割合に変化が見られないが、若年層および中年層ではむしろ大幅に減少している。四つの図のどの項目とどの項目を比較すれば選択肢の正誤判定ができるのかを落ち着いて考えれば何の問題もないはずだ。

第2問 運命について（源流思想）（24点）

問1  正解は③。

ユダヤ教とキリスト教はいずれも神と人々との契約を説く宗教であるので、③はいずれにも当てはまるが、①②④はキリスト教の教え、すなわち新約聖書の教えにのみ妥当する。①の「メシアの復活」は、イエスのように一度死んでいるからこそ言えるもの。ユダヤ教では地上にイスラエル王国を建設する民族的救世主(メシア)として端的に出現すると考える。「復活」するのではない。②の「福音」とは「喜ばしき知らせ」という意味であり、救いについてのイエスの教えのことを指す。キリスト教に特徴的な用語である。④の「山上の垂訓」とはイエスが神の愛を説いた説教のことで、「マタイによる福音書」に描かれている。

正解は②。

「四諦<sup>しだい</sup>」とは「四つの真理」の意味であり、そのうちの四つ目の「道諦<sup>ねほん</sup>」は涅槃への道筋を示している。①の「三密」とは密教における三つの教えであり、日本では空海が強調した。③の「五蘊<sup>ごうん</sup>」はあらゆる存在を構成する五つの要素のこと。④の「六道<sup>へめぐ</sup>」は輪廻の過程で経巡る六つの世界のこと、地獄界や人間界もこのなかに含まれる。

問2  正解は④。

このデルフォイの信託をきっかけにしてソクラテスは智者たちとの対話を開始し、智者とされている人々がすべて無知であることを発見し、「無知の知」を知ることこそが重要であると考えようになったと伝えられている。①②③はいずれもソクラテスの教えだが、デルフォイの信託の内容ではない。

問3  正解は②。

①が孔子の説いた道であるが、このような「人間が従うべき道徳」といった人為を否定するのが老子の立場であり、万物の根源である道に従って何もしなければおのずから上手くいく(無為自然)と説いた。③は儒家の朱子学派が説いた理気二元論における「理」と「本然の性」についての記述である。人間はこのような理を持ち合わせている反面、同時に「気」の側面としての「気質の性」をも持ち合わせているので、本然の性によってこれを抑制していくべきことが説かれた。④は老子の思想を受け継いだ荘子の「万物斉同<sup>せいどう</sup>」についての記述。また「自己の心身を忘れる」ことは「心齋座忘<sup>しんさいざぼう</sup>」と呼ばれる。

問4  正解は③。

イスラームはユダヤ教・キリスト教を兄弟宗教とみなしており、ユダヤ教徒・キリスト教徒は同じ神によって啓示を与えられた「啓典の民」とされ、不完全ながらも本質的には同じ教えを信ずる者と考えられている。①はイスラーム法（シャリーア）についての正しい記述である。イスラームは宗教が生活や政治と分離されていない総合的な文化様式と言える。②は「六信」のひとつ「天使」についての記述。④も正しい。イスラームはキリスト教と同様に民族の違いを超えた平等主義的な世界宗教である。

問5  正解は②。

神による「無償の愛」のことを「恩寵」とも言う。人間は原罪によって根本的に悪に染められているが、この恩寵によって救われるというのがアウグスティヌスの考え。②にあるように、アウグスティヌスは自力で善をなす人間の能力を否定したので、③のように善に向けて「努める」ことを強調する立場はとらない。①は原罪が克服できるかのような記述や恩寵についての記述が間違っている。④は律法の遵守を強調することから、ユダヤ教、とりわけそのパリサイ派についての記述。

問6  正解は④。

いささか込み入った引用文だが、資料読解問題は丁寧に読めば必ず解けるから、落ち着いて対処しよう。インド思想では、死者の魂は現世での行いである業(カルマ)に応じて再生し、生と死の連鎖が無限に続くと考え(輪廻転生)。それを引用文は、悪い行為をすれば「現世においては非難され、来世においては悪いところに生まれる」と表現している。これに合致するのは④の後半部である。①は前半が誤り。現世での境遇は前世での業(カルマ)の影響を受ける。②は後半の「現世での行為は来世での境遇に影響を与えない」が誤り。③も後半の「現世での行為により影響されることもない」が誤り。なお、『スッタニパータ』は最古の仏典とされるものである。

問7  正解は②。

不殺生は初期仏教で定式化された「五戒」のもっとも重要な戒律であるが、ジャイナ教でも徹底的な不殺生が重視されている。①は「苦悩を生み出す」以下の記述が仏教についての記述となっている。また「ウパニシャッド哲学では」を「初期仏教では」に変えるならば、「苦行」が不適当となる。③については、細かい知識になるが、「初期仏教に起源を持つ」が正しくない。ヨーガは古代インドより伝えられてきた修行法で、バラモン教の流派にもこれを重視するものがある。④の記述は八正道と六波羅蜜が混同されている。「正しい見解や思惟」は「正見」と「正思」のことで、いずれも八正道の例である。「六つの徳目」となると、「布施」「持戒」などの六波羅蜜が妥当する。

問8  正解は②。

①は「運命が抗し難いものである」という第2段落の記述に反する。逆に③は第3段落および第4段落の記述に反する。また④にあるような相対的な観念と超越的なものという対比は、リード文から読み取れない。

### 第3問 自尊について(日本思想) (24点)

問1  正解は④。

山鹿素行は、士農工商の封建社会における武士の職分は農民・町人の模範となる義の実践であると考え、士道を提唱した。①藤原惺窩は朱子学を仏教から切り離して独立させた臨済宗の禅僧。②荻生徂徠は古文辞学の創始者で、古代中国の聖人たちの先王の道を学び、礼楽刑政の整備すべきことを主張した。③新井白石は幕府に仕えた朱子学者。

正解は④。

福沢諭吉は「東洋になきもの」として数理学とともに独立心を挙げ、封建的な身分秩序や家族制度を打破して近代人として独り立ちすることを求めた。リード文の「門閥制度は親の敵でござる」は福沢諭吉の有名な言葉である。

問2  正解は③。

日本では古代から仏教と神道の融合が進み、神仏習合が行われてきたが、平安時代には仏が真の姿であり、神は仏の仮の姿としてこの世に現れたとする本地垂迹説が広まった。なお、平安時代には僧形八幡神像という仏像が製作されている。神が僧侶となって仏教の修行をするその姿は、本地垂迹説における仏と神の関係を象徴している。

問3  正解は②。

日本社会では伝統的に、共同体の「和」を守るため、嘘いつわりのない明るく朗らかな心が重視されてきた。これを清き明き心(清明心)と言う。①「正直の心」、③「私心を除く」、④「至誠」はこれに合致する。②は来世での往生極楽を求める浄土教の言葉で、この世(現世)は穢らわしいからあの世(来世)に行きたいという意味である。

問4 17 正解は①。

資料読解問題は2006年の新課程移行から出題が増加している。答えは資料に書かれているので、落ち着いて丁寧に読むことが大切である。さて、本問の資料が述べているのは、他人に意見することの難しさについてである。相手が好まない欠点をズバリ指摘して受け入れられないというのでは、何の意味もない。まずは長所をほめて、相手の気を引く工夫が必要だと言っている。よって、「相手への徹底的な配慮」「腹の底から納得するよう意見する」とある①が合致する。②は「相手の善悪について客観的に意見」、③は「それが通じなければ相手に見切りをつける」、④は「相互に意見し合う」が誤り。④は一見正しそうに思えるが、資料をよく読んで判断してほしい。

なお、山本常朝は武士道を主君のために命を落とせる覚悟と捉え、山鹿素行の士道を批判した。

問5 18 正解は②。

山崎闇斎は朱子学が求める居敬窮理(雑念を振り払って心を統一し、宇宙の根源である理を窮める)の厳格な実践を説き、江戸時代の武士に大きな影響を与えた。また、後に神道に傾倒して神儒一致の垂加神道を創始したことでも知られる。①「上下定分の理」を唱えて封建的身分秩序を正当化したのは林羅山。③「正直」と「儉約」の町人道徳を説き、商業活動の正当性を唱えた石田梅岩の心学の説明。④「一君万民」を唱えて「私を滅して忠を尽くすべきこと」を説いたのは、幕末に松下村塾を開き、伊藤博文らを育てた吉田松陰である。

問6 19 正解は②。

夏目漱石は、ヨーロッパ人のように自己の主体性を確立することを日本人に求めつつ、同時に他者のことも尊重する自己本位の生き方を提唱した。「単なるエゴイズムは否定されるべき」「他人の自由をも認める」とある②が正解。①は「真の利己心を発揮」、③は「自己と世界が統一」、④は「宇宙・自然を我が身で直接感受」が誤り。

問7 20 正解は③。

ア-『武士道』を著わして日本人の精神を世界に紹介したのは、国際連盟の事務次長を務めた新渡戸稲造。イ- 東京神学社を創立して伝道者の養成にあたったのは植村正久。従来、日本のキリスト教徒に関する出題は内村鑑三と新渡戸稲造に限られていただけに、きめ細かい学習の必要性を再確認させられる問題であった。なお、井上哲次郎は戦前の指導的な哲学者で、キリスト教に対しては日本の国体(天皇制)に反するとして攻撃していた。

問8 21 正解は①。

センター倫理特有の内容一致問題である。これも資料読解問題と同様、リード文を丁寧に読んで答えること。本問では、最終段落に「自尊は、他者への配慮と表裏一体のものとして深められてきたもの」という表現に注目しよう。清き明き心にも、山本常朝の『葉隠』にも、夏目漱石の自己本位の主張にも、常に他者に対する尊重がうかがわれた。よって、「各人が自立しながら共存する」とある①が合致する。②は「他者と競い合うなかで、自己を勝利に導く」、③は「社会の束縛を離れて自由に生きる」、④は「自己の思いは秘めて守って」が誤り。

第4問 道徳について（西洋近代思想）（24点）

問1 22 正解は③。

快楽と幸福という結果をもたらす行為がよい行為であるというのが功利主義の立場なので、「席を譲る」という行為が自分にとっても老人にとっても快楽を増すがゆえに道徳的だ、という第2段落の記述がぴったり当てはまる。

23 正解は②。

カントは道徳法則の形式として、「……ならば～せよ」という条件付きの仮言命法の形を取るのではなく、「誰がなんと言おうと、いつでもどこでも～せよ」という無条件の定言命法の形を取るべきだと考えた。②「無条件にそうすべきである」がこれに合致する。①③はそれぞれ「社会」「美徳」という条件が付いている。④の「<sup>く</sup>徳」は善行が果報をもたらすという仏教の因果説の用語であるが、帰結を重視することから仮言命法的一种と言える。

問2 24 正解は①。

「事実から法則を導き出す方法」という記述から、aは経験論者のベーコンであることがわかる。また「自然は……」という言葉もベーコンのものとして有名。bは「精神と物体とを明確に区別」ということからデカルトだとわかる。cは「ホモ・ファール」からベルグソンと即答できる。ホイジンガによる人間の定義は「ホモ・ルーデンス（遊戯人）」である。

問3 25 正解は②。

アダム・スミスは、各人が利己心に従って自由競争を行えば、「神の見えざる手」である市場原理が働いて社会全体の利益につながると『諸国民の富』で述べるとともに、『道徳感情論』では利己心を動機とする行為も他人の共感(シンパシー)を得られれば道徳的に認められるとした。①はルソーの自然状態の捉え方。③は「生の哲学」を説いたショーペンハウアーについての記述。④のように他人を思いやる共感の気持ちから友情や恋愛などの人間関係が生まれるとしたのは、アメリカの心理学者サリヴァンである。

問4 26 正解は①。

フランクフルト学派のホルクハイマーやアドルノは、近代の社会では理性が人間や自然を支配するだけの「道具的理性」に堕したと批判した。②はデカルトの主張。『方法序説』の冒頭の言葉に対応する記述である。③はプラトンの「魂の三分説」。④はフランクフルト学派第2世代の代表者ハーバーマスについての記述。ハーバーマスはアドルノらに師事したが、アドルノらの近代理性批判が行き過ぎであるとして、④のような「対話的理性」という可能性を追求すべきだと主張した。

問5 27 正解は③。

カントは時空を超越した普遍的な道徳法則を追求したが、そのような抽象的な道徳は現実には役に立たず、道徳は法という形で客観化される必要がある、とヘーゲルは主張した。このように道徳と法を統一したものが「人倫」である。①は実存主義、②はマルクスの立場、④は功利主義に則した記述。

問6 28 正解は④。

①は万人に禁止されている行為（たとえば凶悪な殺人）を実行するというのであるから、このような行為が人類への奉仕であるはずがない。②は一定の人に許容されている行為（たとえばギャンブルをすること）をしないというのであるから、それ自体は結構なことだが、人類への奉仕とまでは言えまい。③は万人に対する道徳的義務を果たすというのであるから、正しいことではあるが当然のことであり、「特殊な行為」とは言えない。これに対して④は、誰か特定の人になさなければならない、つまり当人にとっての義務ではない行為を敢えてわが身に引き受けようというのであるから、義務感をも超えた特殊な道徳的な行為である。

問7 29 正解は②。

ハイデッガーは、人間を動物と違って自分は何者かと問うことができる存在だと考えて、これを「現存在」と表現した。人間は日常生活を送るなかで固有の自己を見失ってしまうが、良心の呼び声や、自分が死すべき存在であることを自覚したときに本来のあり方に目覚めると考えた。①は中国思想において「良心」の語を初めて用いた孟子についての記述。性善説の立場から、人間には本来的に仁（他者に対する思いやり）と義（倫理的な道理や義務）が具わっていると考えた。③にある「守護神」がギリシア語の「ダイモン」だと考えるならば、ソクラテスの立場がこれに近い。ソクラテスはしばしばダイモンの声を聞き、それに導かれて行動したという。④はフロイトの立場に則した記述。

問 8 30 正解は④。

第3段落のスミスの議論を正しく要約している。①は第4段落のカントの議論に対応しているが、「自然の法則に従って」がおかしい。これを「道徳法則に従って」に直せば正しくなる。カントが自然界と道徳の世界を峻別していることを知っていれば容易にわかる。②は下線部㊸の箇所に対応しているが、「他人からの賞賛を求めて」が下線部にある「無償の」という記述と矛盾する。③は第2段落の功利主義の議論に対応しているが、ここで道徳の基準とされる快樂は、③のように「身体の欲求に任せ」たものとは限らないし、「本能的」というのが決定的におかしい。リード文でも「席を譲る」という行為について冷静に分析した記述がある通り、いかなる行為が快樂や幸福を増すのかということは本能的に直観できるわけではなく、合理的に計算されて客観的な答えが出されることになるのである。

第5問 責任について（現代社会分野） （20点）

問 1 31 正解は③。

2008年のセンター倫理は、具体的事例の組み合わせ問題やグラフの読み取り問題が増加したことが一つの特徴であった。これも倫理を単なる知識とせず、生きる糧としてほしいという出題者のメッセージかと思われる。しかし、そういう意図とは全く関係なく、受験生にとっては得点源となるはずであるから、冷静に対処してほしい。「悪い結果」に関わるのはイ(いじめ)とエ(交通事故)、個人の責任はアとエ、集団の責任はイ(クラス全体)とウ(先進国)に分類できる。よって、ア-C、イ-B、ウ-D、エ-Aという組み合わせになる。

問 2 32 正解は⑥。

時事的な問題の増加は2006年新課程移行からの傾向なので注意したい。ア- 公害を引き起こした企業が損害賠償や補償の費用を負担する原則を「汚染者費用負担の原則(PPP)と言う。イ- 「個人情報保護法」の保護対象は企業や政府機関が保有する個人データであり、政府や企業の不正な活動ではない。そうした不正については、「公益通報者保護法」によって内部告発者が不利益を被らないように保護され、むしろ告発が推奨されている。ウ- アカウンタビリティも公企業としての責任である。逆に、情報を隠そうして「おわび会見」を繰り返さざるを得なくなり、必要以上に信頼を損ねる事例を最近よく目にする。

問3 33 正解は③。

官僚制(ビューロクラシー)はドイツの社会学者ウェーバーが近代社会の分析に用いた言葉である。近代社会では組織の巨大化とともに効率的に運営するため指揮命令系統が明確化されるが、そのことが上司の指示でしか動けない人間を増やし、かえって組織を非効率的にしていると指摘した。①は「個性や自発性を重視」、②は「非専門性」(逆に自分の部署のことしか分からない)、④は「権威に依存しやすい性格」が誤り。

問4 34 正解は②。

第二次世界大戦中に近代科学から核兵器を生み出し、実際に使用されたことに対する反省から、イギリスの数学者ラッセル・ドイツ生まれの物理学者アインシュタインの提案で1955年に核兵器の廃絶が宣言された。これをラッセル・アインシュタイン宣言と言い、日本で初めてノーベル賞を受賞した物理学者の湯川秀樹も署名した。以後、1957年からパグウォッシュ会議(核兵器と戦争の廃絶を目指す科学者の会議)を開催し、平和運動を続けている。

問5 35 正解は②。

NPO・NGOの活動は現地でのきめ細かい活動を行うことができるため、ODA(政府開発援助)との相補的な役割が今後いっそう期待される。②は「参加者が金銭的な報酬を得ることは避けるべき」が誤り。営利を目的としないということであって、活動に必要な報酬は得てしかるべきである。それを全て「参加者の善意」に押し付けるわけにはいかない。

問6 36 正解は③。

京都議定書(京都会議)に基づく取り組みは、2007年から「チームマイナス6%」という形で本格的に始まったところなので、出題が十分に予想された。また、排出量取引に関する記事も、2008年の年明けから紙面をにぎわせている。倫理受験者はこうした時事的なテーマに関心を寄せることが必要だ。さて、京都議定書では、2008年～2012年の間に1990年の排出量を基準としてEU諸国が8%、アメリカが7%、日本が6%を削減目標とした。しかし、最大の排出国であるアメリカが2001年に離脱を表明したため、その実効性が懸念されている。また、近年急成長を見せる中国・インドを始めとして、開発途上国には数値目標が定められていない。よって③は「全参加国に対して一律に温室効果ガスの排出削減を求める」が誤り。①「宇宙船地球号」、④「地球規模で考え、足元から行動する」は頻出用語なので覚えておこう。

問7 37 正解は③。

実存主義者のサルトルは、人間は自らの決断と行動によって自己の本質を規定していく自由な存在だが、それは責任を負うことであり、アンガージュマン(社会参加)を通じて責任を受け止めることを求めた。それが傍線部の「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味だ。自由の背後には責任がつねにある。「人間だけが自由であり、それに伴う責任を負いうる」とある③が正解である。①「生命に対する畏敬」はアフリカで医療活動に従事したシュバイツァーの言葉。②は「自由」の要素が欠けている。④は「超越者に向かう真の自己」が同じ実存主義者でもキルケゴールやヤスパースの立場。サルトルは神のような超越者の存在に頼ろうとしない。